

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4091600199
法人名	有限会社 グットライフ
事業所名	グループホーム あおきの里
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市城島町上青木262番地 (電話) 0942 - 62 - 5375

評価機関名	(株) アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4 - 6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成19年11月27日	評価確定日	平成20年1月23日

【情報提供票より】(平成19年11月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	12人, 非常勤 4人, 常勤換算 1.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨準耐火造り
	2階建ての1階～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 ~ 30,000円	その他の経費(月額)	(水道・光熱費)8,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 780円			

(4) 利用者の概要(11月12日現在)

利用者人数	17名	男性	3名	女性	14名
要介護1	4名	要介護2	5名		
要介護3	4名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.5歳	最低	72歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	富田病院 / とみやす歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営理念は「福祉・人権・環境・教育は皆平等の精神で、地域社会に貢献できる介護施設をめざす」を掲げ、真心のこもった介護サービスを低料金で提供し、誰でも利用でき、地域の皆様に喜んでいただけるグループホームづくりを目指して取り組んでいる。グループホームの周辺は閑静な田園地帯で、ホームの庭でも野菜づくり・犬や烏骨鶏を飼育し、成長を楽しみにしている。職員は、入居者と共に毎日の暮らしの中で、食事の盛りつけや味付けを行うなど、入居者本位の暮らしを支え、入居者と共に和気藹々と暮らしている。経営者・管理者・職員共に、認知症ケアに熱意を持ち取り組まれており、今後の展開が楽しみなグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	開設1年目で初めての外部評価である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価・外部評価についての勉強会を開催し、職員全員で自己評価を行った。今後も勉強会を行い、職員の介護力を向上させると共に、介護サービスの質の向上に努めていきたいと考えている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議では、グループホームの概要や行事などを報告し、いろいろな助言を得て改善に努めている。現在のところ、定期的な開催を目標に推進しており、委員が参加しやすい日時を設定し、開催していく方針である。また、会議以外にも運営推進委員(民生委員)と社会資源の情報交換なども行っている。今後、入居者の家族が、運営推進会議に参加されていないので、家族会などを通じて、家族の参加を呼びかけていくことが求められる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月、家族には手紙やホーム便り(入居者の写真などを掲載)で報告し、ホームでの生活状況を報告している。入居時には、苦情の受け付け・外部の苦情相談機関について説明しており、面会時やサービス担当者会議では、家族に意見が言いやすい雰囲気づくりに努めている。また、運営推進会議への家族の参加を求め、苦情や意見が気軽に言える場として活かすと共に、運営に反映させていくことが望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	開設当初より、地域の受け入れは良く、近所の方が花や野菜を持って来てくれたり、地域の小学校から運動会参観の招待を受けたりしている。地域の消防訓練には参加し、地域との交流も図っている。地域の介護施設として、認知症についての相談や社会資源の情報提供などを行っている。今後は地域での学習会などを開催し、地域との連携を更に深めていきたいと考えている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は「福祉・人権・環境・平和・教育は皆平等の精神で地域社会に貢献できる介護施設をめざす」を掲げ、地域との連携強化を謳った理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念と方針(モットー)は、事務室内に掲示し、毎日の申し送りでも復唱している。ミーティングでも理念の内容や意味について理解を深めるように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小学校から運動会や音楽会の参観の招待を受けたり、地域のクレーン掃除などにも参加し、地域との交流を積極的に図っている。日常的には、地域の方から花や野菜などを届けていただく関係づくりもできている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての外部評価となり、自己評価・外部評価の勉強会を開催し、外部評価の意義など周知・理解されている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は現在のところ2回しか開催ができていない。会議内容はグループホームの概要や行事などの説明などの報告を行い、助言を受けたり、意見交換ができるように努めている。家族の参加により、家族の意見を聞く場としても活用していくことが望まれる。		運営推進会議に家族の参加を求め、家族が意見などを言える場として活用していくことが求められる。また、定期的な運営推進会議の開催が求められ、参加しやすい日程の調整などに努められることが望まれる。運営推進会議は認知症介護のノウハウを活かし、認知症の理解を高める場としてのテーマ設定など工夫が求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市から入居者を紹介されることが多いので、市担当の長寿介護課や福祉課と連携を取る機会が多い。日頃から、担当者に入居者の報告や相談を行い、積極的に情報交換を行っている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	入居者の3名が権利擁護事業を利用しており、職員全員が理解できるように勉強会を開催している。また、家族にも、制度の説明を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の状況は面会時やサービス担当者会議で報告している。また、毎月、ホーム便りや手紙で、入居者の暮らしぶりを報告している。金銭出納帳は面会時に確認してもらっている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居の際の契約時に苦情相談窓口・苦情相談機関の説明を行っている。また、面会時やサービス担当者会議などで、家族が気軽に意見が言える雰囲気づくりに努めている。		家族の運営推進会議の参加が求められる。また、ホームの行事の後などを利用して、家族同士で話し合ってもらう機会をつくるなど、家族の意見や苦情などを把握する機会や場の設定など工夫が求められる。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に職員の固定によるケアを行っている。2ユニットあるため、入浴介助は2ユニットの職員が一緒に行い、日頃から全入居者になじめるように努めると共に、身体状況が把握できるようにしており、異動などがあっても、別の職員がサポートできる体制を築いている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の募集に関しては、年齢・性別・資格・経験は不問で採用している。また、地域の方の雇用に積極的に取り組んでいる。職員は、職員研修として、行政が開催する人権の学習会に参加できるように支援し、人権の意識を高めるように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	運営理念にもとづいた介護サービスが提供できるように、ミーティングなどで人権教育に取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	新規職員には認知症の勉強会などに参加できるように支援している。職員の段階をふまえた研修受講を支援しており、ヘルパーなどの資格を希望する職員には、勤務をしながら資格が取れる環境づくりに努めている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	地域包括支援センターの勉強会に参加し、同業者と仲間意識を持つことで、情報交換や意見交換などを活発に行うことで、サービスの質の向上に取り組んでいる。		他のグループホームの見学や互いのホームの実習交流など、今後の交流を高めていくことが期待される。
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	見学や体験デイサービス、1泊2日程度の体験入所(無料)を行い、入居者や家族がなじみながら、納得して入居していただけるように取り組んでいる。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者や家族から、生活歴を把握するために聞き取りを行い、今までの生活リズムを崩さないように共に支えあう関係を保ち、「その人らしさ」を大切にケアに努めている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時やケアプラン変更時に、入居者の意見や要望を聞き、ケアプランに反映している。また、ミーティングやサービス担当者会議で、入居者の全体像や状態を把握するように努めている。日頃から、職員は入居者の意向の把握に努めるように話しているが日々の気づきなどメモしておくなど工夫が求められる。</p>		<p>入居者の希望・意向の把握は、職員の日々の気づきが大きく、職員が気がついたことをメモするなど、アセスメントに補充していくことが求められる。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>面会やサービス担当者会議で、入居者や家族の要望を聞き、介護計画に反映しているが、残存能力を活かしていくケア内容の充実が求められる。</p>		<p>入居者の残存能力に合わせて、立位保持などの機能訓練や生活リハビリなどを含めた介護計画の作成が望まれる。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的に介護計画は見直されている。また、状態の変化に伴い、介護計画を見直し、家族の理解を得ている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入居者が希望する場合は、病院への見舞いの付きそいを行っている。個別の買い物や喫茶店でのティータイムなども支援している。また、家族が通院介助ができない場合は同行している。</p>		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居者や家族が希望するかかりつけ医との関係が継続できるように支援している。受診や通院は家族や入居者の希望に応じて対応しているが、必要に応じて専門外来の受診や訪問歯科受診などを支援している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合のマニュアルを家族と協議の上作成し、職員も共有している。		ターミナルケアについての勉強会を行い、事業所としての終末に対する対応指針の作成が望まれる。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	ミーティングや勉強会において、プライバシーに関する職員の意識の向上を図っている。契約書や運営規定に秘密保持を掲げ、プライバシーが損なわれないように支援している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者のペースを大切にしたい暮らしができるように支援している。職員が業務上の都合を優先した場合は、職員に助言したり、ミーティングなどで話し合い、入居者の意向や希望を優先したケアを行うように指導している。		あせらない・あわてない介護がなくなるように、職員の意識向上に努めていただきたい。
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	職員と入居者は、野菜の皮むきや野菜の下ごしらえなど、一緒に準備している。食事は入居者も職員も同じ物を食べ、食後に料理の味付けや食材について話し合うなど、食事の場面における関係づくりを大切にしている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	2日に1回の入浴を支援しているが、汗をかいたり、便などによる汚染などの場合は臨機応変に対応している。また、入居前に長い間入浴していない入居者については、毎日の入浴をすすめている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	庭で飼育している烏骨鶏の世話や、包丁を使い干し柿づくりをしたりなど、入居者の要望や力が活かせるように支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	周りが田園地帯なので、天気や入居者の体調・気分に応じて散歩している。近所のお店での買い物やお宮参りなども支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	玄関には鍵をかけていないので、日常的に見守りや確認を行っている。夜間は安全確保のため遅出が退社後は、鍵を閉めるようにしている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	消防署の指導で、避難訓練・消火訓練を実施し、助言されたことについては改善を行った。今後は自主訓練や地域の方と一緒に訓練を実施していきたいと考えている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有し、摂取量が少ない入居者については、おやつや飲み物などで補給している。食事の献立は、栄養バランスを考えて、学校給食を参考にしている。		栄養のバランス・カロリー計算の参考に、糖尿病の食事「食品交換表」など活用されてはいかがだろうか。
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間は広く、入居者がソファでゆったりとテレビを見たり、職員と話をするなど、居心地の良い空間となっている。入居者がゆっくりとくつろいでいただけるように、テレビ・音楽・職員の声のトーンなど不快感を与えないようにミーティングで話し合っている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室の中のものは全て、入居者・家族の持ち込みである。見学时に今まで使われている物で良いことを説明している。仏壇を持ってこられて、毎日炊きたてのご飯をお供えする入居者もいる。入居者一人ひとりが居心地良く暮らせるように支援している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			